

# 前学年の復習 漢字・語句

得点

/100

1 〈漢字の読み〉——線の漢字に読み仮名をつけなさい。

各1[22点]

- ① 写真を扱う ② 拙速な判断だ
- ③ 囲炉裏の火 ④ 意見を承諾する
- ⑤ 任務を完遂する ⑥ 楼閣に登る
- ⑦ 入り江に防波堤を築く ⑧ 自由を満喫したい
- ⑨ 戦争の犠牲者 ⑩ 人を欺く
- ⑪ よく肥えた土壌 ⑫ 心を裸にして話し合う
- ⑬ 国が援助する ⑭ 里芋を食べる
- ⑮ 祝宴が始まる ⑯ 姉が嫁ぐ日
- ⑰ 工夫を凝らす ⑱ 紳士的な態度
- ⑲ 騎馬戦を行う ⑳ 寛容な態度
- ⑳ 煙突が見える ㉑ 誓約書を作る
- ㉒ 誓約書を作る

3 〈共通する音〉 次の共通の部分をもつ——線の漢字のうち、一つだけ読み方の異なるものの記号を答え、その読み方を片仮名で書きなさい。

各2[6点]

- (1) ア 除外 イ 途中 ウ 徐行
- (2) ア 看板 イ 版画 ウ 炊飯
- (3) ア 培養 イ 倍増 ウ 全部

4 〈二つ以上読みのある漢字〉 次の——線の読み仮名を書きなさい。

各2[24点]

- (1) ① 恩恵 ② 知恵
- (2) ① 服装 ② 衣装
- (3) ① 断る ② 断つ
- (4) ① 境界 ② 境内
- (5) ① 市街 ② 街角
- (6) ① 弾く ② 弾む

5 〈類義語・対義語〉 次の言葉の類義語(↑)、対義語(↓)を書きなさい。

各2[8点]

- (1) 走る (2) 永久
- (2) 優れる (3) 下降

2 〈漢字の書き〉 □にあてはまる漢字を書きなさい。

各1[18点]

- ① □を守る
- ② □の話を聞く
- ③ □カ
- ④ □を建てる
- ⑤ □な性格
- ⑥ □を守る
- ⑦ □な行い
- ⑧ □を
- ⑨ □を
- ⑩ □を
- ⑪ □を
- ⑫ □を
- ⑬ □を
- ⑭ □を
- ⑮ □を
- ⑯ □を
- ⑰ □を

6 〈同訓異字・同音異義語〉 次の——線の片仮名を漢字で書きなさい。

各1[12点]

- (1) ① 名前をタズねる ② 友達の家をタズねる
- (2) ① 列をトトノえる ② 味をトトノえる
- (3) ① 写真をとる ② 決をとる
- (4) ① 団結がカタい ② カタイ石
- (5) ① 品質をホシヨウする ② 損害をホシヨウする
- (6) ① 毎朝八時にキシヨウする ② とても穏やかなキシヨウの人物

7 〈熟語の構成〉 次の(1)~(3)の□に「不・無・未」を、また(4)・(5)の□に「性・化」のいずれかをあてはめて、適当な三字熟語を作りなさい。

各2[10点]

- (1) □この件は□解決のままだ。
- (2) □母は□機嫌らしかった。
- (3) □責任な発言は控えよう。
- (4) □彼の話は整合□がない。
- (5) □国家が近代□を果たす。

# 前学年の復習 言葉のきまり

得点

/100

1 〈自立語・付属語〉 次の各文を、①自立語②付属語に分けなさい。 各1〔6点〕

(1) 僕は 誰よりも 早く 宿題を 提出した。

①  ②

(2) オリンピックは 四年後に 開かれる。

①  ②

(3) 父への 手紙を 書こうと 思う。

①  ②

2 〈品詞の識別〉 次の各組の 線の単語の品詞名を答えなさい。 各1〔14点〕

(1) 町の中央には広場がある。

ある町の歴史を調べる。

部屋の中は暖かい。

部屋の中は暖かだ。

ねえ、本を読んでよ。

おもしろい本だねえ。

暑いから、泳ぎに行く。

暑い。だから、帰る。

早く起きない。

今日は部活動がない。

筆を買った。それで、寝た。

熱が出た。それで、寝た。

ボールとバットを買う。

ひよこがビヨビヨ鳴く。

①  ②

①  ②

①  ②

①  ②

①  ②

①  ②

①  ②

①  ②

①  ②

①  ②

①  ②

①  ②

3 〈自動詞・他動詞〉 次の各語は、あとのどれにあたりますか。それぞれ記号で答えなさい。 各1〔6点〕

(1) 乱す

①  ②

(2) 沸かす

①  ②

(3) 続く

①  ②

(4) 増す

①  ②

(5) 集まる

①  ②

(6) 吹く

①  ②

(7) 君にどうしてもやってほしい。

①  ②

(8) もう一度よく考えてみる。

①  ②

(9) その洋服にはボタンがついている。

①  ②

(10) 君にどうしてもやってほしい。

①  ②

(11) もう一度よく考えてみる。

①  ②

(12) その洋服にはボタンがついている。

①  ②

(13) 君にどうしてもやってほしい。

①  ②

(14) もう一度よく考えてみる。

①  ②

(15) その洋服にはボタンがついている。

①  ②

①  ②

6 〈動詞の活用・活用形〉 次の 線の動詞の活用の種類と活用形を答えなさい。 各4〔20点〕

(1) 彼が必ず来ると信じる。

(2) 早く起きないと、遅れる。

(3) お菓子作りに、失敗した。

(4) 眠くて話すこともできない。

(5) たくさん食べればよい。

形

形

形

形

形

形

形

形

形

形

形

7 〈形容詞・形容動詞の活用形〉 次の各文から、形容詞・形容動詞を一文節で抜き出し、その活用形を答えなさい。 各2〔6点〕

(1) 向こうに小さく見えるのが 駅です。

(2) 生物の体は、微妙なしくみをもっている。

(3) 今日一日、静かにしててください。

形

形

形

形

形

形

形

3 〈自動詞・他動詞〉 次の各語は、あとのどれにあたりますか。それぞれ記号で答えなさい。 各1〔6点〕

(1) 乱す

①  ②

(2) 沸かす

①  ②

(3) 続く

①  ②

(4) 増す

①  ②

(5) 集まる

①  ②

(6) 吹く

①  ②

(7) 君にどうしてもやってほしい。

①  ②

(8) もう一度よく考えてみる。

①  ②

(9) その洋服にはボタンがついている。

①  ②

(10) 君にどうしてもやってほしい。

①  ②

(11) もう一度よく考えてみる。

①  ②

(12) その洋服にはボタンがついている。

①  ②

(13) 君にどうしてもやってほしい。

①  ②

(14) もう一度よく考えてみる。

①  ②

(15) その洋服にはボタンがついている。

①  ②

①  ②

前学年の復習 漢字・語句

漢字練習 1. 次の漢字の意味を答えなさい。あつか、いさり、かんすい、ぼろぼろ、...

1. 次の各語の類義語を一つ。1. 思慮、2. 忠告、3. 遠慮、4. 謙遜、...

1. 次の各語の類義語を一つ。1. 行状格活用、2. 上二段活用、3. 下二段活用、...

1. 漢字の読み間違い。中・語の読み間違い。内容を読んで。この気持ちはなんだろ、...

1. 漢字の書き。漢字の書き。1. こんきょ、2. そせい、3. けいけん、...

1. 基本ワーク。この気持ちはなんだろ。日に及ぶまい。エネルギーの力が、...

1. 確認ワーク。1. 漢字の読み間違いを答えなさい。せんたく、せんたく、...

前学年の復習 言葉のきまり

1. 自立語の付着語。次の各文を、①自立語の付着語に分けなさい。1. 彼は、誰よりも、早く、宿題を、提出した。...

春に

教科書P.16、17 月 日

握手

教科書P.18、19 月 日

# 総合テスト (1)

● 得点

/100

1 〔随筆〕 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。 岩手・改55点

この文章は、山で親にはぐれたムササビの赤ちゃんに、ムーチョン兵衛と名付け、育てたことを描いたものである。

ムーチョン兵衛は百四十グラムあり、生まれて一週間くらい、お母さんのお乳を飲んでいただけだろうと思われた。ムーチョン兵衛はおなかをすかしてギユウギユウないているのに、いつこうにミルクを飲んでくれない。ゴムの乳首なんかごめんだよと言わんばかりに、哺乳瓶を前あしで押し返してよこす。なんとか助けようと気持ちばかり焦るが、ムーチョン兵衛は少しも人に慣れることなく、野性の強さをむきだしにしていた。ムササビは木に登るため、あしの爪は、こんなに小さな赤ちゃんでも鋭い。わたしの手は、小さな切り傷でいっぱいになり、腫れてきたが、手の痛さよりも、ミルクを飲んでくれないほうがはるかに辛く、ムーチョン兵衛のお母さんほどのようにしていたのだらうと、いつも考えていた。

ムーチョン兵衛が来て三日目、わたしは、ムーチョン兵衛をタオルにくるみ、鼻の頭やふわふわした耳を、最初はやさしく、少しずつ力を入れてなめてやった。すると、「ギユウギユウ」となきながら、なめているわたしの顔に、15からだをどんどん押しつけてきた。「今だ」と思い、用意しておいたミルクを飲ませると、どうだろう。あれほどこいやすかったゴムの乳首を前あしでつかみキユツ、キユツと押しながら飲んでくれたのだ。おいしそうにミルクを飲んでいるムーチョン兵衛の顔に涙が落ちた。

ムーチョン兵衛がわが家に来て二か月ほど経ったころ、二階の手すりから二メートルほど離れた梁へ飛び移りたいという仕草をした。人間でいえばやつとヨチヨチ歩きだったころは、階段の二、三段目からあぶなっかしそうに皮膚をひろげて滑空の練習をしていたが、幼稚園生くらいに成長したこの

ころ、二メートルほど飛びたいといって、階段の手すりに立ったのだ。

前あしを胸の前に置き、まるで飛ぶ距離を計るように、頭を上下、左右に25大きく回した。わたしは当初からムーを山のお母さんから預かったつもりで育て、一人前になったら山へ帰してやろうと思っていた。そして、このムーチョン兵衛の飛びたい、滑空したいというムササビの本能のようなものを見たととき、これはけつして畳の上などで死なせてはならない、どんなにきびしくとも山のなかで生きてこそ、ムーチョン兵衛は生きたといえるのだという30思いがさらに強くなった。わたしは梁の下へ行き、ムーに向かって、手で大きく弧を描いて見せながら言った。

「飛べる、飛べるよ。ピヨーンと渡るんだよ。」  
顔を大きく回していたムーチョン兵衛は、わたしの声にうながされて、二メートルのみごとな跳躍を披露した。わたしはおっぱいも毛づくろいもして35やれなかったが、ムーチョン兵衛に最大限の拍手を送った。

ムーチョン兵衛は、一か月余り、梁が露出した山小屋風のつくりのわが家の居間を跳躍の練習場所としたあと、山へひとり遊びに出かけた。その初日は夜も眠れないほど心配したが、野性に帰るには、山のなかでどのようにしなければならぬか、ムーチョン兵衛がひとり学ばなければならぬ。40学ぶということは、失敗したり、痛い目にあったり、おどろいたりしながら、人間のミルクよりも杉の実や木の新芽がおいしいと感じることなのだ。そう思っ、台風の時も、大雪の時も、いやがるムーチョン兵衛を外へ出してやった。

やがて、二日戻らず、三日留守にし、一週間帰宅せず、ついに翌年の十月十五日を最後に、ピタリと戻らなくなった。

一年半、いっしょに過ごした。ムーの押入れの寝床から、やわらかい毛が見つかっては涙をながした。しかし、時が経つにつれ、だれの力も借りず、ひとり山で生きる力に身をつけた、たくましいムーチョン兵衛に、心から「おめでどう」と言えるようになった。(甲斐芳子「ムササビの森の昼ごはん」より) 50

(注) 梁＝屋根などの重さを受け支えるために、柱の上に渡した横木のこと。  
皮膚＝前あしと後あしの間にある皮膚の膜。夜、それを広げて木から木へ飛び移る。

(1) 線 a・b の漢字の読み方を書き、c の平仮名を漢字で書け。各5(15点)

□ a □ b □ c

(2) 線①「ムーチョン兵衛の顔に涙が落ちた」とあるが、そのときの「わたし」の気持ちとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。(10点)  
ア ようやく「わたし」を信頼しはじめたムーチョン兵衛を、心からいとおしむ気持ち。  
イ ムーチョン兵衛がミルクをたくさん飲んで、早く成長してほしいと願う気持ち。  
ウ 母親と間違え、「わたし」に甘えているムーチョン兵衛をかわいそうに思う気持ち。  
エ ムーチョン兵衛を思い通りに育てることができると、自信を深めている気持ち。

□ (3) 線②「二メートルほど離れた梁へ飛び移りたいという仕草をした」とあるが、その行動を「わたし」は、何によるものだと考えたか。文章中から七字で抜き出せ。(10点)

□ (4) 線③「畳の上などで死なせてはならない」とは、どういうことか。「野性」「人間」の二語を使って簡潔に説明せよ。(10点)

□ (5) この文章全体で描かれていることとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。(10点)

ア ムササビにミルクを飲ませるまでの苦勞と、動物を守ろうとする決意。  
イ ムササビと人間との交流と、それを引き裂く自然界の恐ろしさ。  
ウ ムササビを飼育することの難しさと、自然には勝てない人間の無力さ。  
エ ムササビの成長を見守る愛情と、自然の営みを大切にしようとする姿勢。

2 〔短歌〕 次の短歌を読んで、あとの問いに答えなさい。 群馬・改45点

- A いついつと待ちし桜の咲き出でていまはさかりか風吹けど散らず 若山 牧水
- B 若竹の傾くさまもおのづから健やかにして梅雨晴れんとす 佐藤佐太郎
- C 金色のちひさき鳥のかたちして銀杏ちるなり夕日のをかに 与謝野晶子
- D 石がけに子ども七人こしかけてふぐをつりをり夕焼け小焼け 北原 白秋

(1) 次の鑑賞文に合う短歌をA～Cの中から選び、記号で答えよ。 各10(20点)

□ ① 新しい季節が訪れた喜びを鮮やかな花の美しさで表している。  
□ ② しなやかで生き生きとした植物の姿に季節の変化を捉えている。

□ (2) Cの短歌に使われている表現技法として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。(10点)

ア 倒置法 イ 反復法 ウ 体言止め エ 擬人法

□ (3) Dの短歌で歌われている情景を簡潔にまとめよ。(15点)

# 総合テスト (2)

● 得点

/100

1 (論説) 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。 静岡・改[60点]

水というのは、おそろしい力をもっている。大雨が降って川の水かさが増せば、人間の力ではどうしようもないすさまじい勢いですべてのものを流しつくしてしまう。川の流れがかわれば、それによって人間の住居のありかたさえもがかわる。インダス河の河口の位置は、これまで何千年かのあいだに東にむかって移動し、かつて繁栄をほこったバンボールの街はいま廃墟に5なってしまうている。とうてい人間は川の流れにはさからえない。人間は文字どおり、水の流れのままに生きていのである。

だが、いったん水の流れの性質を理解した人間は、その流れを使う、ことをくふうする。流れにのつてものを運搬することも発明したし、水車をつくって流れを動力源にすることも考案した。流れをせきとめ、ダムをつくり水の10流れおちるエネルギーを電気にかえることさえもやってのけた。水に使われ、立場から水を使う、立場へ——人間はそういう知的進化をとげたのだ。

情報についてもおなじことがいえる。情報の洪水のなかでわれわれはおぼれかけているかのようにもみえるのだが、視点をひっくりかえして、このおそるべき情報を使つてやろう、というふてぶてしい態度が生まれてもよいはずである。わたしが、この本で取材と名づけるのは、情報を[A]ことである。取材の立場とは、積極的、主体的に情報を使う立場のことである。

じつさい、その気になりさえすれば、[B]立場から[C]立場への視点の転換はそれほどむずかしいことではない。そして、[D]立場に立つてみると、こんにちの情報爆発時代というのはまことにありがたい時代なのである。情報が多すぎて困る、というのも一面の真理だが、同時にこれだけたくさん情報があるのだから、いったん使い方をさえおぼえれば、どんな情報でも自由自在に手に入るのである。現代という時代は、あたかも情報の釣堀の

ごときもので、どんなアマチュアでも、ほんの手ほどき程度の釣りの技術をおぼえれば、たくさん情報がおもしろいほど、どんどんかかってくるものなのだ。

情報のすくない時代には、当然のことながら情報はそうやすやすと手に入りはしなかった。本を読みたい、といつても本は貴重品だったから、よほどのことがなければ持ち主は他人に貸したりはしなかったし、だいたい、情報というものは洋の東西を問わず、ごく一部のエリートがひそかに独占していたものなのである。だから、情報を使うどころか、あつめることさえむずかしかった。だいたい、ふつうの人間が情報をあつめる、などというのはありえない話であった。だが現代はちがう。どんな情報でも、手に入る。そのためには金持ちである必要もなく、特別に高度の学歴が必要であるわけでもない。一人まえに読み書きができ、ごくあたりまえの常識さえもつていれば、35誰でも自由な取材者になることができるのである。

わたしの知っているある若ものは、タダで手に入る情報だけで現代社会についての論文を書くことをかんがえた。かれは、街かどで配られるチラシ、ビラなどをもらい、商店ではカタログやマツチをもらい、そのほう大な資料をとりまとめて、いまの日本の世相をさぐり、そして分析してみせてくれた40のである。手に入れた資料はひとつのこらず、まったくタダ。

これなどは極端な例だけれど、その気になりさえすれば、情報はいくらでもあつまるのである。かんがえてみれば、こんなにしたのしい時代はこれまでの人類史のなかで他に例をみない。社会にみちあふれるほう大な情報量に悲鳴をあげるか、それとも勇躍としてこれを使いこなすか、それはひとことである。ひとりひとりの個人の決意の問題なのである。

(注) バンボールの街：インダス河の河口付近に、十三世紀頃まであった港町。  
(加藤秀俊「取材学」より)

□(1) — 線③④の中から、意味・用法の上で、他と異なるものを一つ選び、記号で答えよ。(10点)

□(2) [A] [B] [C] [D]にあてはまる言葉の組み合わせとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。(15点)

- A A 使う B 使う C 使われる D 使う
- I A 使われる B 使う C 使う D 使う
- U A 使われる B 使われる C 使う D 使う
- E A 使う B 使われる C 使う D 使う

□(3) — 線「情報が多すぎて困る」ことを筆者はどのようにたえているか。文章中から五字で抜き出せ。(15点)


□(4) この文章で述べられていることとして最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。(20点)

- A 情報が少なかつた頃でも、その気になれば情報はたくさん集まった。
- I 情報が現代でも、高学歴であることが情報収集には必要である。
- U 現代は、やる気さえあれば情報をいくらでも入手できる時代である。
- E ほう大な情報量に悲鳴をあげるか、それを使いこなすかは、社会の在り方の問題である。


2 (古文) 次の古文を読んで、あとの問いに答えなさい。 三重・改各10[40点]

禽虫のたぐひ、を知れるためし、これ多し。  
漢武帝、昆明池にあそび給ふに、一つの鯉の鉤を含みて、死なむとするあり。帝<sup>①</sup>これを見て、人をして「ときはなち給へり。その夜、帝の夢中に鯉来りて、<sup>②</sup>悦びけり。次の日、池に行幸し給ひけるに、昨日の鯉の、明月の珠を含みて、感謝した。お出かけになられたとき」<sup>③</sup>地<sup>④</sup>の辺に置きて去りぬ。そののち、かの池の釣漁をとどめられけり。  
(十訓抄「より」)

(注) 禽虫＝鳥や虫。ここは、動物の総称。漢武帝＝中国の前漢の皇帝。昆明池＝武帝がつくらせた大きい池。明月の珠＝暗い夜でも明るい光を発する宝玉。

□(1) にあてはまる言葉として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。  
ア 捕 イ 逃 ウ 恩 エ 不思議

□(2) — 線①「これ」とは、何を指すか。現代語で、二十字前後で答えよ。


□(3) — 線②「ときはなち給へり」を現代仮名遣いに直し、全て平仮名で書け。

□(4) — 線③「去りぬ」の主語を文章中から抜き出せ。

資料編 五重の塔はなぜ倒れないか

教員 D. 272

P.178

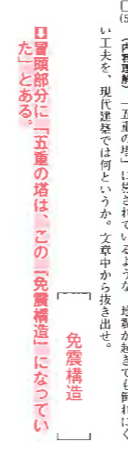
1 次文を讀んで、その問いに答えなさい。
(1) 五重の塔はなぜ倒れないか。
(2) 五重の塔の構造は、どのようなものか。

2 次の文章を讀んで、その問いに答えなさい。
(1) 五重の塔の構造は、どのようなものか。
(2) 五重の塔の構造は、どのようなものか。

P.179

2 次の文章を讀んで、その問いに答えなさい。
(1) 五重の塔の構造は、どのようなものか。
(2) 五重の塔の構造は、どのようなものか。

3 次の文章を讀んで、その問いに答えなさい。
(1) 五重の塔の構造は、どのようなものか。
(2) 五重の塔の構造は、どのようなものか。



P.180

1 次文を讀んで、その問いに答えなさい。
(1) 五重の塔の構造は、どのようなものか。
(2) 五重の塔の構造は、どのようなものか。

2 次の文章を讀んで、その問いに答えなさい。
(1) 五重の塔の構造は、どのようなものか。
(2) 五重の塔の構造は、どのようなものか。

P.181

1 次文を讀んで、その問いに答えなさい。
(1) 五重の塔の構造は、どのようなものか。
(2) 五重の塔の構造は、どのようなものか。

2 次の文章を讀んで、その問いに答えなさい。
(1) 五重の塔の構造は、どのようなものか。
(2) 五重の塔の構造は、どのようなものか。

P.183

1 次文を讀んで、その問いに答えなさい。
(1) 五重の塔の構造は、どのようなものか。
(2) 五重の塔の構造は、どのようなものか。

2 次の文章を讀んで、その問いに答えなさい。
(1) 五重の塔の構造は、どのようなものか。
(2) 五重の塔の構造は、どのようなものか。

P.182

1 次文を讀んで、その問いに答えなさい。
(1) 五重の塔の構造は、どのようなものか。
(2) 五重の塔の構造は、どのようなものか。

2 次の文章を讀んで、その問いに答えなさい。
(1) 五重の塔の構造は、どのようなものか。
(2) 五重の塔の構造は、どのようなものか。

総合テスト (2)

100

総合テスト (1)

100